

第22回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ
安全・安心な社会の実現を目指して
—品質不正、規制と自主的マネジメント、科学的問題解決法の教育—

日時： 2022年5月14日（土）13:00～17:30
場所： Cisco Webex Event によるオンライン開催
主催： 日本原子力学会 ヒューマン・マシン・システム研究部会
日本品質管理学会
日本人間工学会 安全人間工学委員会
後援： 日本電気協会、日本信頼性学会
参加費： 無料(後日作成の報告書(PDF)が欲しい方は1冊1,000円で別途入手できます)
定員： 300名
申込先： 以下のURLより、5月7日（土）17:00までにお申込ください。
https://jsqc.org/22safety_workshop/
連絡先： （一社）日本品質管理学会 事務局
住所： 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟内
TEL :03-5378-1506 FAX :03-5378-1507 E-mail:jimukyoku@jsqc.org

【開催趣旨】

エネルギー、運輸、医療などの社会基盤分野において安全・安心を確保するためには、ハードの健全性だけでなく、ヒューマンファクターや組織のマネジメントなどのソフト面にも目を配ることが必要である。しかし、多くの研究が行われてきたにもかかわらず、ソフト面に起因する事故・トラブルが少なくない。本シンポジウムは、安全・安心のための管理技術と社会環境に関する研究の現状と課題、事業者と規制当局の関連する事項の実施状況と課題などを持ち寄り、関係者で認識を共有した上で、行うべき研究の課題や方向性、事業者や規制当局が実施すべき事項などを充実するための手がかりを得たいという思いで、ヒューマンファクター、品質マネジメント、社会技術の3つの学問分野の専門家が集まり、平成19年3月以来継続的に開催してきた。

22回目となる今回は、「安全・安心な社会の実現を目指して—品質不正、規制と自主的マネジメント、科学的問題解決法の教育—」をテーマに取り上げる。製品・サービスの提供においては、様々な組織における情報の隠蔽・改ざんなどの品質不正が社会問題となっており、その防止のために何を行うべきか議論がなされている。他方、安全・環境・品質などのマネジメントシステム認証の分野においては、規制と自主的マネジメントの位置付けが曖昧になっており、規制機関が定めた要求事項を守らせること・守ることのみに力点が置かれ、それぞれの組織が自らのおかれた状況を把握し、自由意志でマネジメントに取り組む必要性を忘れている行政者・経営者・管理者が少なくない。さらに、これらの背景には、科学的問題解決法やマネジメントに対する社会の理解が進んでいないことが関係していると思われるが、我が国におけるこの領域の初等・中等教育は欧米やアジア諸国に比べると遅れており、このことが、社会が、品質不祥事や事故の防止に対して正しい方向からアプローチすることを難しくしているように思われる。

そこで、本ワークショップでは、異なった領域の実務家・専門家からの講演をいただいた上でパネルディスカッションを行い、社会が大きく変化する中、品質不正を防ぎ、それぞれの組織に適した効果的なマネジメントを実践する上で何が難しさになっているのか、その克服のためにはどのような取り組みが有効なのか、その実践に向けて社会としてどのような研究・検討を行っていく必要があるのかを明らかにしたい。

【プログラム】

- 13:00－13:10 開会挨拶・趣旨説明 伊藤 誠（筑波大学、日本品質管理学会・安全・安心社会技術連携特別委員会）
- 13:10－13:40 「問題提起：人の不適切な行動を防ぎ、望ましい行動を引き出すには」
中條武志（中央大学）
品質不正・事故の背後には人の不適切な行動がある。また、社会が大きく変わる中、素晴らしい経営成果をあげている事例の背後には、人の望ましい行動がある。人の不適切な行動を防ぎ、望ましい行動を引き出すには、どのようなマネジメントが求められるのか、そのようなマネジメントを普及・浸透させるには、社会としてどんな取り組みが求められるのかについて問題提起を行う。
- 13:40－14:25 「品質関連不正の未然防止に関する提言」
永原賢造（プロセスマネジメントテクノ）
自動車関係の2社の品質不正、素材関係の4社の品質不正、計6社の事例について、公表されている資料をもとに、共通する品質不正の発生のメカニズムを検討した内容、品質不正を起こしたそれぞれの会社が第三者を入れて設けた事故調査委員会の取り組み内容の不足している点、それをもとにまとめた未然防止に関する10の提言について話していただく。
- 14:25－15:10 「パフォーマンス向上における規制と自主的マネジメントの役割」
飯塚悦功（日本適合性認定協会）
安全・環境・品質などのパフォーマンスを向上する上で、マネジメントの果たす役割は大きく、規制は組織に適切なマネジメントを求める上で重要な役割を果たしてきた。ただし、各々の組織が置かれている状況は異なるため、規制に従うだけでは不十分で自主的なマネジメントが不可欠である。マネジメントシステム認証制度に長らく関わってこられた立場から、規制と自主的マネジメントの関係についてどう捉えるべきか話していただく。
- 15:10－15:20 休憩
- 15:20－17:20 パネルディスカッション「安全・安心な社会の実現を目指して」
コーディネータ：中條武志（中央大学）
パネラー：永原賢造（プロセスマネジメントテクノ）
飯塚悦功（日本適合性認定協会）
木村 浩（木村学習コンサルタンツ）
鈴木和幸（電気通信大学）
高橋 信（東北大学）
- 論点
- ・社会が大きく変化する中、品質不正を防ぎ、規制と自主的なマネジメントを適切に組み合わせていく上で何が難しさになっているのか
 - ・それらの難しさを克服する上で、どのような社会的な取り組みや教育が求められるのか
- 17:20－17:30 閉会挨拶 五福明夫（岡山大学、日本原子力学会ヒューマン・マシン・システム研究部会）

<参考>

| | | |
|-------------------|--------|---|
| 平成 19 年 3 月 8 日 | 第 1 回 | 品質マネジメント、ヒューマンファクター、社会技術（総論） |
| 平成 19 年 9 月 12 日 | 第 2 回 | 不適合管理 |
| 平成 20 年 3 月 10 日 | 第 3 回 | 人間信頼性 |
| 平成 20 年 9 月 26 日 | 第 4 回 | 情報の共有・公開 |
| 平成 21 年 3 月 10 日 | 第 5 回 | 人材・技術マップ（総論） |
| 平成 21 年 9 月 7 日 | 第 6 回 | 失敗から学ぶ |
| 平成 22 年 3 月 8 日 | 第 7 回 | 教育・訓練 |
| 平成 22 年 9 月 6 日 | 第 8 回 | コミュニケーション |
| 平成 23 年 3 月 8 日 | 第 9 回 | 手順書・マニュアル |
| 平成 23 年 9 月 14 日 | 第 10 回 | ヒヤリ・ハットと危険予知 |
| 平成 24 年 3 月 12 日 | 第 11 回 | 安全の確保と信頼・理解の醸成（総論） |
| 平成 24 年 10 月 13 日 | 第 12 回 | エネルギー問題に関する国民的議論 |
| 平成 25 年 3 月 16 日 | 第 13 回 | レジリエントな組織は QMS で作れるのか |
| 平成 25 年 10 月 12 日 | 第 14 回 | 柳田邦男氏とともに「福島事故」を考える |
| 平成 26 年 12 月 23 日 | 第 15 回 | 社会の安全・安心を確保するための行政による規制と事業者による自律的マネジメントのあり方 |
| 平成 27 年 12 月 25 日 | 第 16 回 | 事故調査の社会的役割と進め方 |
| 平成 28 年 12 月 23 日 | 第 17 回 | 信頼を得るための方法 |
| 平成 29 年 12 月 24 日 | 第 18 回 | 安全文化の醸成と全員参加の実現 |
| 平成 30 年 12 月 22 日 | 第 19 回 | 情報・知識の共有による安全・安心の確保 |
| 令和元年 6 月 21 日 | 第 20 回 | 安全に寄与する組織文化の核心とは |
| 令和 2 年 11 月 14 日 | 第 21 回 | 社会の変化と人の育成 |

過去のワークショップの報告書（講演・討論記録、PDF）を各 1,000 円で頒布しています。NPO 法人パブリック・アウトリーチ（info@ponpo.jp）まで氏名・送付先（E-mail アドレス）を連絡してください。

今回のワークショップ（第 22 回）の報告書（講演・討論記録、PDF）についても 1,000 円で頒布の予定です。9～10 月ごろ準備できる予定です。